

本県の豚熱疑似患畜発生農場におけるウイルス侵入経路特定と経営再開に向けた取組

茨城県県北家畜保健衛生所

○田口彩絵 栗田敬介

令和7年3月31日、本県の繁殖農場（以下、当該農場）から千葉県に関連肥育農場に移動し間もない子豚で豚熱が発生。発生状況等から当該農場で感染した可能性が高く、農場内へのウイルス侵入経路特定のための調査を実施。カメラを用いた野生動物生息状況調査の結果、防護柵周囲では複数の野生イノシシや水浴びをするカラス、畜舎周囲ではストール舎や分娩舎でネズミを確認。環境調査では、分娩舎の屋根裏から野外株の豚熱ウイルスを検出。さらに環境水調査では、分娩舎前の水溜まりから野外株の豚熱ウイルスが検出され、ウイルスに汚染された雨水が敷地内に流入し、ネズミ等の小型野生動物を介して畜舎内にウイルスが侵入したものと推察。当該農場では経営再開に向け、雨水・粉塵対策及び小型野生動物の侵入防止対策として、防護柵周囲へのU字溝及び防護壁の設置、畜舎周囲のコンクリート舗装、豚舎間通路の壁及びクールセルへの金網設置等を実施。野生イノシシ対策として、捕獲強化及び経口ワクチン散布を実施し、豚熱の再発防止に万全を期して7月下旬から候補豚を順次導入。豚熱陽性イノシシが確認される地域では、環境水がウイルスに汚染されている可能性を念頭に置いたバイオセキュリティ強化が必要。研修会を通じた情報共有により農場に関わる全ての関係者の衛生意識向上を図り、県内での豚熱発生を防ぎ、一層の生産性向上を期待。